

令和7年度(2025年度)

病虫害発生予察情報

第9号

注意報第3号

北海道病虫害防除所 令和7年(2025年)6月27日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

とうもろこしを食害するアワノメイガが多誘殺！ 早めの防除を心がけよう！

本年6月上旬以降、北斗市に設置したフェロモントラップへのアワノメイガ誘殺数は、平年と比較して多く推移しており、道南農試場内のとうもろこしほ場（無防除）では、すでにアワノメイガによる被害の初期症状が散見されています。また、令和6年度からフェロモントラップを設置した長沼町においても、前年より多い誘殺数となっています。

アワノメイガは、トウモロコシ、アワ、キビ、ヒエを加害する害虫で、幼虫が食餌植物の茎や刈株中、または落葉の中で露地越冬して翌年春に成虫が羽化して葉裏に卵塊を産み付けます。1雌あたりの産卵数は平均600粒程度で、数カ所に分散して産付します。ふ化幼虫は、はじめに葉片や雄穂を外部から食害しますが、まもなく茎の内部に食入して加害します。

アワノメイガ幼虫によるトウモロコシ被害は、幼虫が茎に孔をあけて食入することにより行われ(写真1)、孔の内部から塊状の虫糞や鋸屑状の咬み屑を排出します(写真2)。このため、食入部からは枯死して風によって容易に折れます(写真3)。また、穀穂では包皮の柔らかな部分から食入して粒や軸までも食害します。

札幌管区气象台発表の6月26日付け1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予報されており、成虫の産卵、幼虫の食害が活発になるものと予想されます。

以上のことから、発生地域においては早めの防除を心がけましょう。

1. 発生地域 道央・道南・道北

ただし、道東地域においてもほ場の観察につとめ、発生が確認された場合は速やかに防除対策を実施する。

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 6月26日現在、長沼町、北斗市に設置したフェロモントラップに成虫誘殺が確認されている。北斗市の誘殺数は平年よりも多く推移しており、長沼町でも前年よりも多く誘殺されている(図1)。
- (2) 道南農試場内のとうもろこしほ場（無防除）では、アワノメイガによる被害の初期症状が散見されている。
- (3) 6月26日付け札幌管区气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高くなると予報されている。

4. 防除対策

- (1) スイートコーンの8、9月どり栽培では、7月上中旬に約10日間隔で2回散布することを基本とする。ただし、すでに発生が認められているため早めの防除を心がける。
- (2) 防除薬剤の選択にあたっては、令和7年度北海道農作物病虫害・雑草防除ガイドの記載内容に準拠して効果の高い薬剤を散布する。また、他害虫の発生に注意して、効率的な防除を心がける。
- (3) 虫糞の出ている被害茎は速やかに切り取り、幼虫の移動加害を防止する。
- (4) 被害茎を含む茎稈は、晩秋あるいは翌春処分して越冬幼虫密度の低下を図る。

〈具体的データ〉

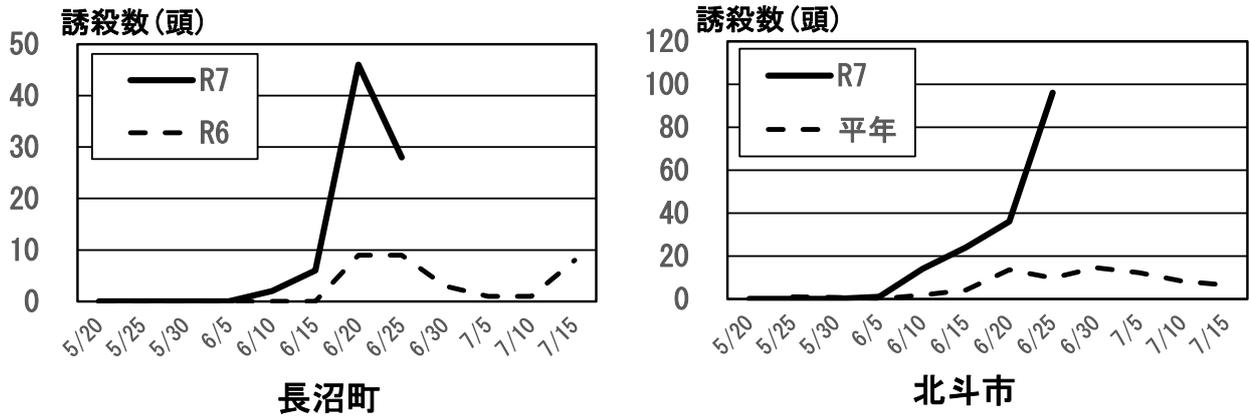


図1 農業試験場内の定点ほ場(無防除)に設置したアワノメイガフェロモントラップへの誘殺数



写真1 アワノメイガ幼虫



写真2 アワノメイガ幼虫による食入痕



写真3 アワノメイガ幼虫による被害

※写真の撮影月日は、1～3とも7月31日